

■活動内容

- ・主に60歳以上の男性を対象に、月に一度、土曜か日曜の夜に、会費1000円で、作った野菜やお酒、釣った魚などを持ち寄り、いろんな話題でみんなでワイワイ交流、支え合いのベースをつくっています。
- ・交流している中で、地域に役立っていこうという機運が生まれ、地域の人たちの困りごとや要望に対して、自分たちでできることをやってみようと活動もしています。
- ・これまでの実績として、自治会館のクーラーそうじ、自治会館や個人宅の草刈、大型ごみの地域一斉回収時の運搬ボランティア（一人では運べない家庭などに対して）、自治会館駐車場でのかまどベンチづくりなど。年に一回の地域区民フェスティバルにも有志が協力し出店、さんまや焼き鳥を焼きながら、その活動を広報しています。



■団体名

居酒屋おいで

■参加者

主に60歳以上の男性 まかないサポート役の女性たち

■活動拠点
連絡先西川自治会館
世話人 森下幸男（TEL:080-5764-6806）

■活動のきっかけ・実現までの経緯

‘地域の福祉’の場面の担い手は女性がほとんどで、男性は自治会の役でもなければ自発的には出てきません。それはこれまでの‘福祉’が主におもてなし的なものであったから。これからのますますの高齢化や地域の支え合いを考えたときに、男性の活躍の場は多いです。また、自分自身が地域で交流を持っているかどうか、お互い様の助け合いのベースにもなります。

このような思いを持って周りを見回すと、定年退職後や一人暮らしの男性など、あらためて地域での交流を結びなおしたい人たちがいます。近所にたまり場になるような飲食店もありません。みんながお互い様の気持ちで、気楽に出てこれる場を作れたら…このような思いは女性から発案。これに共鳴した有志で「居酒屋おいで」を始めました。



利用者さんの声

・大型ゴミの回収では、忙しくて持っていけなかった、軽トラックもなく運搬できなかったところ、とても助かったという声をいただいた。

※居酒屋の参加者の声としては同時に活動者でもあるため右に掲載。

活動者の声

- ・心置きなく話す機会もあまりなく疎遠になりがちだけれど、コミュニケーションがとれるようになった。
- ・地域内の新興住宅地にいると旧集落の人との接点が作りづらかったが、この集まりで親しみが深まり、老人クラブの役を担うなど積極的に関わるようになった。
- ・自治会の役割も回ってくる中で、孤立することなく関わっていける。
- ・毎回の持ち寄りも楽しみだし、次回の集まりが楽しみだ。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

- ・地域の支え合いの元になる交流は「出てきて下さい」というアプローチではなく、「行きたくなるような」場面作りが大切。
- ・特に男性は女性と違って、個人で地域活動するでもなく、仲間づくりが進みにくいです。楽しみながら地域の人と仲間づくりをするところから始めていけるようにしています。それには「食べる時間の共有」は最適。一人ではなくみんなでワイワイ食べるのは楽しいです。自分たちで場をつくるというところを大切に、後片付けもきっちり。また女性の協力や段取り力は欠かせません。ともに楽しむ方向で。
- ・酒を飲まなくても、いろいろな話題が行き交うので十分楽しめています。酒はきっかけであって目的ではありません。
- ・サポートをしている女性たちから地域の話題なども提供し、力を出そうという雰囲気づくりをしています。